裁判員経験者との意見交換会を行いました。

令和４年１１月２４日、３名の裁判員等経験者にお越しいただき、裁判官、検察官、弁護士も交えて、意見や感想、気になったことなどを伺いました。

●裁判員等を務めた全般的な感想

非日常的なことで、自分事と思っていなかったので選任されたときは戸惑ったが、貴重な機会と思い参加した。

個人的にも、とても勉強になったが、法的知識や背景事情などについて、もう少し説明が欲しかった。

勤務している会社に裁判員裁判に参加するための休暇制度があることを知り、社内全体にも知らせることができた。

普段の生活とは全く関わりのない内容で、法廷では理解できないこともあったが、必要に応じ、裁判官が評議室で説明してくれてすごく助かった。

これまで触れる機会がなく、書面が届いた時はびっくりしたものの、一人の社会人として協力しようと思い、やってみて良かった。職場でも選任されたことを伝えたところ協力してもらえた。

●争点を意識した審理のあり方について

当事者の冒頭陳述は適切な情報量だったと思うし、裁判長が上手くファシリテートしてくれたので、審理に先立ち争点を理解することはできた。

検察官や弁護人の質問の意図が分からないこともあった。裁判員にとっては法廷での口頭のやりとりだけでは理解しづらい点もあった。

大量のメールが証拠として出されたため法廷では消化しきれず、評議室で改めて証拠を確認するなどし、落ち着いて考えることでようやく整理できたが、情報量が多すぎると整理しきれないと思う。

裁判員制度キャラクター　さいニャン

●争点を意識した評議のあり方について

裁判官がホワイトボードに事件の争点やその判断のために何が必要かを書いてくれたので、迷ったときでも立ち戻ることができた。

裁判長のリードにより議論が堂々巡りにならず、争点から外れず積み上がり、結論に向かって進んでいくのが分かった。補充裁判員も含め全員の意見を分け隔てなく確認してくれたので、全員が納得のいく形で結論に至れたと思う。

量刑判断は裁判員には難しく、どうしても経験豊富な裁判官の意見に影響されてしまうと思う。

限られた時間内だったが納得いくまで議論ができた。ただ、期限内に判決を出さなければならないというプレッシャーはあった。

量刑については、裁判官の意見も一つの意見として、それには影響されずに示されたデータを参考に自分の意見を述べた。

●今後の裁判員裁判に望むこと

やりたくてもできることではないので、選ばれたことをチャンスと思って積極的にやってみてほしい。若い世代については、高校の授業に取り入れるなどして、ある程度の心構えを持った上で参加できるようにしてほしい。

自分も含め人前で意見を言うことを苦痛に感じる人もいるので、すぐに裁判を始めるのではなく、話しやすい環境づくりをしてから、評議などを始めてほしい。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

裁判所ナビゲーター　**さいたん**